

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2020年4月1日 199号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



タロイモの成長を記録する奥迫さん。



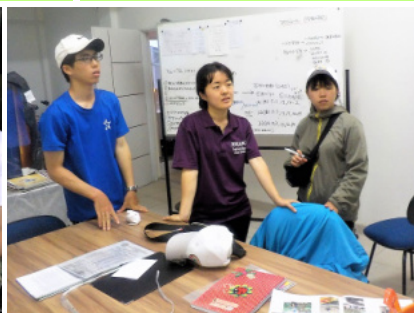
水と土を分析する奥迫さん。2016年11月



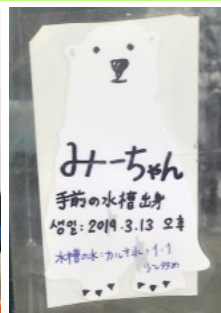
左より、江頭君(養豚)、竹内君(動物)、川久保君(養殖)、滝川君(養殖) 2月20日



アキダバンでレダの産品を販売。



エビ養殖研究室の鮮文大生たち。



飼育幼生群の愛称



エビの世話をする鮮文大生たち。

## 継承は力なり!

パンタナールの代表的な食卓魚であるパクーの養殖、新機軸オニテナガエビの養殖、伝統的な牛の大規模放牧を中小規模で補完する養豚、これらの食料生産プロジェクトの推進エンジンとなっているのが、レダ基地に次々とやって来る若者たちです。

彼らの素晴らしいところは、何といっても、困難な課題に立ち向かうチャレンジ精神、純粋な魂、そして柔軟な頭脳から生まれる創意工夫、機敏な行動力、ITの活用、開拓基地で求められる主体性と協調性です。生きものが相手の業務では、夜も昼も気を抜く間がなく、当然ながら休日というものもありません。今回は、オニテナガエビの養殖研究を、途切れることなく駅伝のように継承してきた、歴代の若者たちの歩みを簡単に紹介しましょう。

最初にその研究に取り組んだのは、韓国鮮文大水産生命医学科のインターン生として、2016年9月にレダ基地にやって来た奥迫さんです。レダの微生物を含む動物相、水質・土質等の分析のほか、様々な調査研究を、大学で身に付けた科学的な手法で進めました。定点観測や定性・定量分析によるデータの蓄積を長期に継続したのは、レダ基地では初めての事です。翌年3月に一旦帰国して諸般の準備をし、2018年1月に夫人のカタリーナさんを伴って再びレダに来ました。以後、夫妻で協力して研究に携わり、オニテナガエビ養殖研究の初代パイオニアとして、レダ基地にその土台を築きました。

奥迫夫妻が開拓した新地をしっかりと引き継いだのが、同じく鮮文大インターン生として、昨年三月レダ基地にやって来た堀さん、西山さん、瀬戸本君です。三名揃ってレダ基地に到着し、奥迫夫妻の研究と関連業務を引き継ぐと、三本の矢のように強靱な結束力をもって、本格的な研究に推進力を発揮しました。孵化したエビのゾエア(幼生)をポストラバと呼ばれる稚エビにまで育成するための環境条件を、100通り以上も組み合わせを変えて試行し、多くの不成功例と二つの成功例を見つけたのです。三人の明るい笑顔と研究精神と行動力は、当時とその後のレダを、より明るくしました。(次面に続く)





左より、奥迫さん、權教授、奥迫夫人、ミン君、イム君。2018年7月4日

**継承は力なり**（前面より続く）鮮文大生三人の担っていた研究内容と関連業務を一人で引き継いだのは、水田君です。水田君は鳥取大学農学部3年生でしたが、養殖に関しては全くの初心者。当然ながら、大変な日課が始まりました。一人でもできる作業量を新たに策定するなどの工夫をして、昼夜なく奮闘しました（本紙192号3面参照）。

青年奉仕隊に先駆けてレダにきた友谷君と加藤君は、わずか2週間足らずで水田君から研究業務を引き継ぎました。二人とも養殖の初心者です。折しも二人が到着した7月は、南半球の冬の始めでした。

エビの幼生は低水温で死滅することがあります。二人は飼育槽の温度管理に苦心しながら、稚エビにまで育てました（本紙194号）。友谷君が青年奉仕隊に移動した後は、加藤君が一人で担当。生きものの大好きな加藤君は、環境変化に敏感に反応する幼生の生命と向き合っており、臆することなく研究を続け、多くの稚エビを生みだしました（本紙197号）。

次に引き継いだのは、友保君です。釣りでも見せた持ち前の研究マインドを養殖研究でも発揮し、前任者たちが孵化させた幼生の生存率を大きく向上させました。友保君は半年にわたって研究業務を担当し、



アルテミアを観察する水田君。

大きく育った稚エビを、夏を迎えた屋外の養殖池に放つまでになりました。そして現在は、レダに再来した滝川君と、パラグアイ生活の経験を持つ川久保君の頼もしい両名が、エビ養殖技術の実用化に向けて、地道に研究を続けています。



水田君（右）から作業を学ぶ友谷君。

レダ基地におけるオニテナガエビの養殖研究は、揺籃期を終え、黎明期の前夜にあると言えるでしょう。こうした歴代の担当者たちが絶え間なく研究を進め続けることができたのは、データに基づく科学的な手法をしっかりと継承したことによるのもちろんです。

しかし、よき研究マインドを持つとともに、主体性と協調性を備える若者たちが、切れ目なく次々とレダに来てくれたことの背後には、何か見えない力、天の配剤が感じられます。

彼ら若者たちの研究活動を可能にするにあたって、

中田前所長、岩澤現所長をはじめとするレダ基地スタッフの指導と支援があったことは、ここで改めて言うまでもありません。中でも土弘君は、電力会社の停電が発生するたびに発電室に駆けつけ、飼育槽のポンプが止まらないように電源を切り替えてくれました。



飼育槽の管理をする友谷君。



飼育槽の管理をする加藤君。

日本と世界各地から、継続的にご支援をくださる皆様の尽力です。まさに継承と継承は力なりです。

レダ基地の先輩スタッフは、熟年者、高齢者が多



友保君が観察する幼生のエビの活動。

くなり、体は次第に無理が利かなくなってきました。しかし、その若き日に豊かに持っていた知的冒険心、ときめく心、新しい事物への適応力まで衰えることは、望むところではありません。幸いにして、若者たちと日々の活動や生活の中で自然に刺激し合い、学び合えるのが今のレダ基地です。



## レダ基地スナッフ



タロイモ苗(種芋)を植え付ける準備。2月15日



タロイモ苗の植え付け。縦と横の線を揃える。2月15日



パブロさんが従業員のために夜の講義をする。2月16日



二ームの搾油器を調節する岩澤所長(左)。2月13日



水落氏の8kgマングルジュ。2月9日



滝川君がスルビを7匹釣る。3月1日



カナン牧場担当のビクトルさんと息子たち。2月28日



上質のミツバチ巣。2月13日



上質の蜂蜜。2月13日



日本に一時帰国する水落氏(中央)を見送る。2月28日



## 第27回環境問題研究会セミナーご案内

お待たせしました。第27回環境問題研究会セミナーを左記の要領で開催いたします。

●テーマ…南極から「ちきゅう」を観る

―探検(検)の思考から―

●講師…永延幹男先生(ながのぶみきお)

自然哲学者。1951年福岡県筑後出身。東京大学大学院農学系研究科博士課程修了(農学博士・南極オキアミ環境生態系研究)。青春時代に丸一年間地球一周行を含む多くの世界探検旅行を経て、未知の自然が深い南極へ強い憧憬を抱き、南極海洋環境生態系研究を志す。東大大学院および国際水産資源研究所(南大洋生物資源研究室 室長)にて長年南極海フィールド調査(総計9回南極行)を推進。かつ南極海洋生物資源保存条約科学委員会の日本科学者代表として国際会議・共同研究に携わる。最近2年間エクアドル共和国へJICA



国際協力活動。地球規模エルニーニョ現象の中心域のガラパゴス海域と南極海の繋がりを、現在進行中の地球環境変化を痛感。著作…「炎の村へー自己帰への探検(たま出版)」「南極海ー

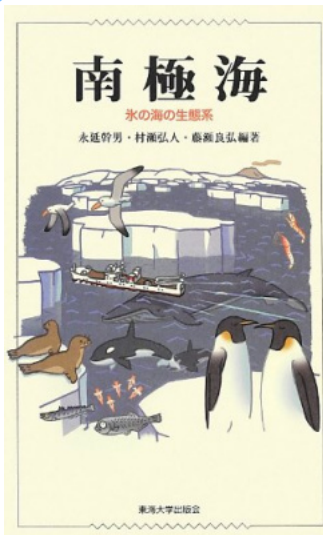
## 炎の村へ

自己帰への探検



永延幹男

精神のカオスを駆けぬけた  
ボタの軌跡!!  
北緯内洋面を巡る、南緯の足跡  
新時代を画す日本のルポルタージュ!



「南極海ー

極限の海から(集英社新書)」「融然の探検ーフイー

### 南極海極限の海から

永延幹男



ルドサイエンスの思潮と可能性(編著・清水弘文堂書房)」「南極海ー氷の海の生態系(編著・東海大学出版会)」「他。新著作「(仮題)探検(検)の思考」を執筆中。ちきゅう環境生態と経験・思考との相互浸透から自然とヒトとの繋がりを編む。

日時…4月25日(土) 午後1時半〜4時(受付1時)

会場…大山街道ふるさと館3階第一・第二会議室

川崎市高津区溝口三丁目13-3 電話:044-813-4705  
(東急田園都市線高津駅徒歩5分または溝口駅東口徒歩8分、JR南武線武蔵溝ノ口駅北口徒歩8分)

参加費…無料。参加を希望される方は、ファックスまたはメールで、4月22日までに下記の当法人事務局宛てお申し込みください。(定員60名)  
主催…一般社団法人南北米福地開発協会



## シニアボランティアを募集します

●車両整備のできるシニアボランティア

レダ基地において、車両の整備をしてくれる方を必要としています。自動車整備士の資格があれば理想的ですが、公認資格がなくても車両整備の経験と技能があれば大丈夫です。

ハイテクよりも、むしろローテク(老熟技術)を活用していただける分野です。

現在レダ基地には、2ト



ントラック、四駆ピックアップなどのディーゼル車が数台、ガソリンエンジンの軽トラ1台があります。大型車両や特殊車両はありません。この他、ディーゼル発電機が4台あり、給油、オイル交換、フィルター類の交換など通常の作業も願われます。経験のある方なら、若者を含め、年齢不問です。詳細については、面談でご説明します。ご関心のある方は、下記事務局まで、お問い合わせください。

## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook

.com/ledaproject.jp/

## 会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット(印刷済み)、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

## レダ・プロジェクト紹介用 パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>